2026 年 7 月 29 日
株式会社 SCREEN ホールディングス
グローバルコミュニケーション戦略本部　IR 室

2027 年 3 月期　第 1 四半期　決算関連 Q&A

決算説明会 Q&A		
Q1	SPE	下期で売上拡大見込みだが、装置のリードタイムは現状どれぐらいで、今期分売上のどこまで見えているか。また 3Q、4Q の売上バランスは？
A1		・現状の装置リードタイムは 4～5 カ月。また今期売上計画分の受注はほぼ見えている。 ・下期 3Q、4Q の売上バランスについてはほぼフラットと見ている。メモリーのお客様の投資意欲は強く、納入前倒し要求があり、多少キャパシティを上回る程度。
Q2	SPE	WFE CY2027 の見方で、アプリケーション別のトレンドは？
A2		CY2027 もトレンドに大きな変化はないと見ている。CY2027 後半にメモリー中心に投資計画が多数発表されており、基本、メモリーと先端ロジック（・ファウンドリー）が牽引する方向に変わりない。具体的な話は、今後具体的なビジネスが見えてきたらお話ししたい。
Q3	SPE	WFE の見立てより、さらに需要が拡大した場合、生産キャパシティは対応可能か？
A3		・来年度（2028 年 3 月期）までの需要をカバーできる生産キャパシティはある。また更なる需要拡大に備え、京都の長岡京にある設備を増産用に改修し対応する予定。彦根の現有設備も効率アップの改修をしている。 ・現実的なレベルで同業他社に後れを取らない準備は可能である。売上は WFE 伸長をアウトパフォームするとお伝えしており、十分に対応できる自信あり。本件、今後の新中計の発表の中でも、皆さんにお知らせしたい。
Q4	SPE	売上スライド案件の売上確度はどうか？また、2Q の売上予定案件はどの程度出荷済みか？
A4		・売上スライド案件は、2Q 売上でほぼ確定。 ・2Q 売上予定案件の約半数は現時点で出荷済みであり、残り半分は 9 月第 1 週にかけて出荷していく。
Q5	SPE	通期ガイダンス（業績予想）について、3Q、4Q で更に売上アップサイドの可能性があった場合、キャパシティは対応可能か？また、もし増収がある場合、もう少し利益の増加もあるのでは？
A5		・3Q、4Q の上振れ可能性はあるが、今期売上の生産計画がほぼ見えているので、大幅アップという訳にはいかないだろう。 ・利益に関しては、更なるキャパシティの確保のために利益の一部を投資に回す必要もあり、開発・設備増強も計画していることをご理解いただきたい（現・中期経営計画の方針通り）。
Q6	SPE	前回説明会より、さらに固定費が増加していることはないか？また装置価格の値上げについて、顧客側の理解を得やすい状況になってきているのでは？
A6		・固定費の計画については変更なし。 ・装置価格について、性能向上した部分については装置価格に転嫁していく。原材料費の上昇分についても価格転嫁の交渉を進めている。原材料高騰については、お客様も同様の状況であり、ご理解をいただいている部分もある。

Q7	SPE	WFE CY2026 の成長率について、「先端ファウンドリーの 25%以上」は５月発表から引き上げたのか？
A7		・引き上げた。前回は WFE 市場の成長が 20%ならば、「先端ロジック・ファウンドリーは 25%弱」としていたが、それを「25%以上」と見直した。 ・ご参考>> 前回は、WFE 成長を 15～20%のレンジと示していた中で、「WFE 市場成長 20%成長」の場合は、「先端ロジック・ファウンドリーは 25%弱」としていた。
Q8	SPE	中国 WFE 市場の見方は？
A8		・中国でも AI 関連半導体の投資が必要となっており、当社の得意分野である先端半導体向けの投資が増えている。 ・汎用半導体向けの製造装置は中国国産メーカーが台頭しているが、先端半導体向け投資が伸長しており当社に有利な状況。中国 WFE 市場全体も伸びると見ている。
Q9	SPE	1Q の売上と利益、想定通りとのことだが、営業利益率の落ち込みが相当大きく見える。売上減少だけが要因か？また固定費の消化は計画通りか？
A9		・売上減少が唯一の理由であり、特殊な要因はない。 ・固定費はほぼ予定通りに消化している。
Q10	SPE	下期の営業利益率の考え方について、工場フル稼働で営業利益率 27%は現状の実力値か？何か一過性の要因があるか？
A10		現状想定する売上とプロダクトミックスを勘案すると、当該営業利益率になる計画。特に一過性要因はない。
Q11	SPE	ポストセールス（PS）の売上予想が下期で減少する見通しは、慎重なのか？もしくは装置生産優先ということか？
A11		PS が装置売上増に比例して増加、伸長していくのは想定通り。ただし、短期間で装置売上が大きく上がる場合は、漸増する性質の PS の比率は一時的に下がる。また、性能アップのための改造（PS の一部）は、お客様の稼働率が上がっている現状では装置の空き時間が取れず実施が難しい。その点、消耗品販売などでカバーしていきたい。
Q12	全社	「その他および調整」の営業利益について、1Q 実績と今回上期予想とを差し引きすると、2Q 営業利益のマイナスが大きく見えるが、要因は？
A12		事業会社に振り分けできない項目が「その他および調整」に入る。多少のバッファーはあるが、5 月発表の時から大きな変動はない。
Q13	FT	PLP のビジネスについて、今期・来期の見通しは？
A13		来期から本格的に評価フェーズがスタート。概算ながら来期の売上は今期から倍増する見通し。
関連 FAQ		
Q14	GA	今期業績見通しは？
A14		・欧米向け装置売上が順調に推移。中東情勢は注視しつつ、部材コストの上昇や新関税の影響などを見極め慎重に価格転嫁を進め、増収を目指す。 ・安定収益が期待できるリカーリングビジネスを推進し、５月予想比で増益を狙う。
Q15	FT	今期業績見通しは？
A15		・OLED 向けを中心に、ディスプレー関連売上はサプライズなく想定通り進む見込み。 ・今期よりアドバンスドパッケージのビジネスを統合。同事業の売上タイミングを精査し

		て今回売上予想を見直したが、引き合いは増えており、ビジネスの進捗に合わせアップデートをしていきたい。
Q16	PE	今期業績見通しは？
A16		・AI サーバー関係メモリー、AI グラフィックチップなどのお客様からの引き合い旺盛。特に中国のお客様の投資活発であり、引き合いは強い。 ・競争環境はあるものの、パッケージ基板の需要取り込みで増収増益を狙う。

HD: ホールディングス、SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、
FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業